第三者評価結果

事業所名：戸塚せせらぎ保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<コメント>	
児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針等を踏まえた上で、保育園の理念、方針や目標を明記した全体的な計画を作成しています。同時に計画では、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態等も考慮し、健全な育成を図ることとしています。全体的な計画は、主任が中心となりクラス会議、職員会議で全職員と話し合いを重ねながら作成するようにしています。定期的な見直しに関しては今後の課題と考えています。	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<コメント>	
保育室はエアコン、加湿器等を使用し、自然換気を取り入れながら、子どもが心地よく過ごせるような温湿度を心がけています。南向きの窓からは十分な採光を取り入れ、明るい室内になっています。そのため、0,1,2歳児の午睡時間には、子どもの表情を確認する明るさは確保しつつ、カーテンを閉める等臨機応変に対応しています。また、午睡時の寝具(簡易ベッド)は衛生面に配慮し、定期的な消毒を行っています。現在、園内には物品が増えつつあり、特にエレベーター前では安全な動線の確保が困難な状況になっています。今後、物品の配置に工夫が必要と考えています。	
A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b
<コメント>	
職員は、入園時に保護者から提出された児童票や個人面談からの情報、また入園後の子どもとの関わり、観察等からも子どもを把握し、十分に尊重しています。子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように心がけています。また、自分の気持ちを表現する力が十分でない子どもに対しては寄り添いながら、共感したり、時には代弁する等しています。子どもの状態に関しては、園での生活だけでなく家庭での様子も保護者と共有しながら穏やかに接するように努めています。職員は、「せかず言葉や制止言葉」に対しては、別の言い方に置き換える事にはしていますが、心に余裕がない場合等では十分とは言えない状況です。更なる配慮が必要かと思わ	
A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	b
<コメント>	
基本的な生活習慣の習得にあたっては、保育園としては保護者に保育で取り組んでいる内容をお便りで伝えただ上で実践し、時間や空間にゆとりを持った環境で行っています。例えば、食事面では離乳食や食具の使い方(手づかみ食からスプーン・フォーク、箸へと段階を踏んで)は個々の発達状況に合わせて進めています。排泄面では、定期的にトイレへの声かけや促しを行ったり、一人ひとりの排尿の感覚やリズムに合わせた個別の対応をしています。園では午睡は基本0,1,2歳児が行っていますが、子どもの状況によっては3歳児においても対応しており、適宜休息時間が保たれるように工夫しています。	
A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
<コメント>	
自由時間には職員が子どもの要求を聞きながら、4~5種類の玩具を物入から運び、子どもはそこから主体的に遊べるように環境設定を行っています。その際には職員は遊びの中での子どもの自発性を大切に考え、様子を見守ることで人間関係が育めるように努めています。園では、園庭での自然との触れ合いを不十分と考えており、戸外活動の時間を多く設定しています。近隣の公園では鬼ごっこ、砂遊び等の他に季節の変化に触れています。お散歩では交通ルールや地域の人への挨拶等社会的ルールを学ぶ機会になっています。ただし、お散歩マップは現在作成途中とのことですので、完成に期待しています。	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 0歳児は連絡帳や口頭でのやりとり等保護者との情報共有を密にして、家庭生活も視野に入れた保育をしています。職員はゆったりとした言葉かけやスキンシップを取りながら、子どもの表情や様子を感じ取り、情緒的な絆を築いています。職員との安定した関係の中で生活や遊びが充実するようにしています。保育室は床暖房を備え、子どもの発達に応じた手作り玩具(ペットボトルの蓋やミルク缶等を使用した指先遊び用玩具等)で発達を促す工夫をしています。また、色カード等を使用した視覚教材を利用し、物の名前や形に触れ、子どもの好奇心を膨らませる工夫も行っています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p><コメント> 3歳未満児(1・2歳児)では、子どもが自分でやりたい気持ち、意欲を大切にしながら見守り、励ましています。なかなかうまくいかず本人がやる気を失いがちになる時も見守り、できた時には十分に褒めています。自我が芽生える時期のおもちゃの取り合いやたく等行動には特に注意しています。友立ちに対して、言葉で自分の気持ちを上手く伝えられない時は職員が仲立ちをしています。探索活動としては2歳児は、幼児用の「体操室」でかけっこをしたり、マットや跳び箱を使用して自由に遊ぶ等の環境設定を行っていますが、今後は更なる興味関心を深められるような環境整備に努めています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p><コメント> 園での指導方針として、3歳児クラス以上からは学習(読み書き計算、体操、発声)を毎日の保育カリキュラムに導入しています。「読み」は3歳の7月までにひらがなが読めるようにしています。「書き」では鉛筆の正しい持ち方、書き順に注意しながら練習しています。「体操」では、3歳児は柔軟性を図りながらのブリッジや壁倒立、4歳児は友だちとの協調性を取りながら逆立ちやブリッジ歩き、5歳児は卒園までに逆立ち歩き10m以上、跳び箱10段という目標を持って取り組んでいます。「発声」では3歳児は歌を楽しみ、4歳児では、基礎となるリズム感を養い、5歳児では、友だちと協力しながら、課題曲に取り組んだり、ピアノの演奏を楽しん</p>	
<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント> 保育園内はバリアフリーになっています。エレベーターを設置し車いすにも対応しています。障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連付けて支援しています。園では基本的に他の子どもと一緒に保育しており、必要時には職員配置を増やす等して対応しています。子ども同士の関わりでは、互いへの配慮、声かけにより共に成長できるように努めています。障がいのある子どもの保護者とは連携を密にして、面談時には園での様子、家庭での様子を共有しています。また、戸塚地域療育センターとも連携を図り、相談、助言を受けています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p><コメント> 1日の生活を見通して、その連続性に配慮した子ども主体の保育を行っています。子ども一人ひとりの体力を考慮して対応するようにしています。延長保育では、1階の0,1歳児用の保育室を使用し、床にマットを敷き子どもがいつでも横になれる等の配慮を行い、家庭的な雰囲気やゆったりと過ごすことができるような環境を整えています。また、遊びについては、少人数で遊べる「風船遊び」や落ち着いて取り組める「パズルやぬり絵」等を提供しています。子どもの状況については、職員間で引継ぎ簿を活用して伝達漏れが無いように努めています。保護者には連絡帳だけでなく、引継ぎ内容を口頭で伝えることで連携を取っています。</p>	
<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
<p><コメント> 全体的な計画の中では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載し、それに基づいて保育を行っています。内容は「健康な心と体、自立心協調性、社会生活との関わり、数量・図形・文学への関心・感覚、言葉による伝え合い等」10項目になっています。近隣の小学校とは連携しており、1~2月には年長児がバスを利用し訪問しています。その際にはランドセル体験、学校見学、体育館での交流を行っています。また、担当職員は就学先の教員との意見交換や幼保小の連絡会への参加等で連携を図っています。その情報は保護者にも伝えていきます。5歳児の担任は保育所児童保育要録を作成し、主任、園長が確認の上で小学校へ提出しています。</p>	

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
<コメント> 子どもの健康管理に関するマニュアルは整備されており、年間の保健計画を作成しています。それに基づいて登園時には、保護者から子どもの様子（食事、睡眠、遊び、機嫌等）を確認しています。保育士は保護者の情報と子どもを観察することで一人ひとりの様子を把握しています。その後は活動への参加具合や食事量を確認し、変化が見られた場合には、お迎え時に伝え帰宅後の家庭での様子や過ごし方等翌日に必ず確認しています。乳幼児突然死症候群に関する資料は保育室に掲示し、実践することで職員に周知しています。ただし保護者には乳幼児突然死症候群について十分に周知しているとは言えず、今後の課題になっています。	
【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
<コメント> 健康診断・歯科検診の結果は記録し職員間で共有しています。また、保護者には個人連絡帳で結果を通知しています。診断結果や子どもの状態によっては、かかりつけ医への受診を勧める場合もあります。健康診断・歯科検診の結果によって必要性を感じた場合には、保育実践の中に反映させてます。例えば、虫歯の予防については各クラスで正しい歯磨き方法を模型を使用して指導しています。また、感染症の予防に対しては、手洗い方法を掲示しイラスト付きで説明しています。	
【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<コメント> アレルギー疾患のある子どもに対しては、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに子どもの状況に応じた適切な対応を行っています。生活管理指導表でアレルギー児を把握しています。保護者には月末に翌月の献立表を知らせており、連携を図っています。食事の提供時には色の違うトレイ、食器を使用し、食札に除外食材、名前を記載し、調理室内でのチェックや更に栄養士と保育士での確認等で誤食がないように注意しています。園では定期的なエピペンの使用練習を行っています。アレルギー児が外出時には必ずエピペンを持参するようにしており、安全な対応を心がけています。	
A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b
<コメント> 食に関する豊かな経験ができるように、全体的な計画の中において重点的に取り組む内容として食育を位置付けています。食育計画は栄養士が指導案を作成し園長主任が確認してから実施しています。食育は毎月年齢に応じて行っています。例えば、0.1歳児は野菜スタンプ、2歳児は絵本、3.4歳児はトウモロコシの皮むき、5歳児はクッキング活動を行う等、各クラス全員で食育に関わるように取り組んでいます。また、ナス、キュウリ、トマトなどの野菜の苗を植え、育てることで興味関心を深めています。給食のサンプルを展示したり、レシピを配布する等家庭との連携を図っています。	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<コメント> 栄養士は一人ひとりの子どもの発育状況や体調を考慮した献立の作成しています。昼食時には各保育室を巡回し、子どもの食べる量、好き嫌いや人気メニュー等を把握し、残食量の調査等を行い、献立や調理方法の工夫に反映しています。節分、ひな祭り、七夕や端午の節句、クリスマス等では季節感のあるメニューを取り入れています。また、愛知県の「名古屋あんかけスパゲッティ」福島県の「クリームボックス」沖縄県の「しじゅうしい」等郷土料理も提供しています。衛生管理については、衛生管理マニュアルを基に調理室内の衛生管理体制を整えています。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>毎日の登降園時の口頭による会話や連絡帳等で家族との日常的な情報交換はできています。また、毎月のクラスだよりを発行しクラスごとの様子を紹介しています。内容は、年齢相応の保護者へのお願いやイベント情報、子どもの作品紹介、季節の歌、各月の目標等となっています。特に活動内容については、保護者に具体的な「保育のねらい」を伝えることができています。6月と11月には保育参観を実施しています。Instagramでの発信や運動発表会、学習発表会等の各種行事を通じて、子どもの成長を保護者と共有できる機会を提供していますが、今後は更に園を知ってもらうことが大切と考えています。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>保護者とは日々コミュニケーションを図り、信頼関係を築くように心がけています。保護者からの相談には、まず担任が対応し、必要に応じて主任、園長が同席する体制はできています。相談を受ける場所は、プライバシーに配慮し落ち着いた話ができる2歳児の保育室で対応しています。また、内容によっては、保育士だけでなく栄養士等の専門性を活かしたアドバイスや支援を行っています。相談内容は「面談報告書」に記録して職員間で共有しています。今後の継続した支援の対応等に期待しています。</p>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>家庭での子どもの権利侵害の兆候を見逃さないように、健康観察等で状態の確認を行い、早期発見できるようにしています。職員は保護者が心を閉ざさないように、日頃から保護者への声かけを行うことで、話しやすい雰囲気作りに努めています。しかし、権利侵害が疑われる場合には速やかに園内で情報を共有し、対応を協議する体制はできています。また、児童相談所等の関係機関との連携を図る体制も整えています。マニュアルは整備していますが、今年度は研修は行っていません。今後の取り組みが期待されます。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>保育士等は例えば、年間指導計画書の中で1期(4,5,6月)2期(7,8月)3期(9,10月)4期(11,12月)5期(1,2,3月)の各期ごとに評価・反省(自己評価)を行っています。自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮しています。保育士等の自己評価シートは定期的に本人がセルフチェックを行い、保護者が閲覧可能な場所に設置しています。保護者者の目に触れることを意識することで、保育への意識向上に繋がっていると考えています。保育士等の自己評価は園全体の自己評価に活かしています。今後の継続を期待します。</p>	